

学校関係者評価委員会 23年度 評価結果報告

日産京都自動車大学校 学校関係者評価委員会

1. 開催日時

2024年6月27日(木)13:00～15:00

2. 開催場所

日産京都自動車大学校 校舎棟1階セミナーA教室

3. 出席者

- (評価委員)
- 1. 団体代表 矢川賢治(京都自動車整備振興会 専務理事) / 坂田博則(京都府自動車車体整備協同組合 事務局長)
 - 2. 高校代表 中森耕平(京都府立田辺高校 自動車科学科長)
 - 3. 卒業生代表 西村 剛(第1回卒業生 正和自動車販売株式会社 会長)/ 安達耕太(日産大阪販売(株)BP羽曳野工場)
 - 4. 企業代表 三浦直也(京都日産自動車株式会社 執行役員) / 内藤和典(日産大阪販売株式会社 BP事業部次長)

(学校事務局) 川嶋則生(校長)、鳥井英雄(教頭)、吉澤英行(学務部 課長)、橋本健(学務部 課長)、清水昭一(教育部 課長)、大村哲嗣(教育部 課長)

上記以外の参加者 佐藤友彦(自動車課 課長代理)、井上恵太(自動車課 課長代理)、遠藤博之(一級課 課長代理)、当麻範嗣(教務課 課長代理)、民野武史(車体科統括教員)

4. 議題

- 1) 校長挨拶
- 2) メンバー紹介(評価委員、学校事務局)
- 3) 2023年度の活動振り返り
- 4) 意見交換

5. 議論

- 1)概況： 今回は、FY23の様々な取組結果についてご理解を頂き、また、各委員から貴重な意見・示唆を頂くことができました。これを基に、課題に取り組んでいく。
- 2)項目別評価と主な意見、及び それに対する学校の受止め ※意見の番号と、受止めの番号は、リンクしている。

承認	基準	項目	主な意見
承認	1. 教育理念 ・目標	主な課題	・一級工学科の学生育成、特に国家資格取得率の向上を図る必要がある。 ・車体科教員の先進技術の技能取得を図る必要がある。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	2. 学校運営	主な課題	・「決定基準」の運用について経費処理を軸に内部監査を実施、その結果を受けて、運用を整備していく。 ・法人内のルールについても、細部、不足なものを明確化し、引き続き整備していく。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	3. 教育活動	主な課題	・自動車課では、実習レポート評価をルーブリック評価、実習行動評価を行い実習試験にはんえいした。事前に学生展開をを行い、自主性主体性を促す教育を継続する。 ・自動車整備・カスタマイズ科の車両製作は、人財育成に大きく寄与している。また、クオリティが年々向上して来ており、教員の車両製作スキルの向上も課題の一つである。 ・車体整備業は、電子制御整備主任者の資格が大いに必要になる為、BR科の教員にも整備主任者資格講習の受講やNBC講座の受講を検討する。 ・IGT授業を導入して3年目になるが、学生が所有するChromebookの更なる活用及びIGT授業の充実を図る必要がある。 ・一級工学科は、学生フォーミュラーの日本大会で静的審査は、全項目をクリアした。特に難関である電気車検も合格し、始めて動的検査に進んだ。 ・国際自動車整備科(留学生課程)3年課程の最善策として、留学生独立課程の「国際オートメカニック科」をスタートした。自動車課のカリキュラムとの連携に苦慮したが、今後、2年、3年次のカリキュラムの作成、玉成していく必要がある。
		主な意見	・授業では黙っていてもわかっているつもりをしている。IGT授業では、動画、画像などのアプリ等は取っ掛かり易いと思うので良い。(中森委員)
			・IGT授業では、質問できない生徒も自学し易い環境になるので良いと思う。(中森委員)
			・IGT推進会議に参加して昨今の状況を確認しているが、日産校は進んでいる。高校として送り出す側として安心であり、もっとPRすれば良いと思う。(中森委員)
			・留学生の職場体験(インターンシップ)は凄く良い取り組みである。受け入れる側も慣れる必要があるが、協力するので進めたら良いと思います。(三浦委員)
			・専業者として、国家1級資格も必要になっている。町工場を代表して就職する学生を紹介して欲しい。仕事は、板金塗装を含む、全ジャンルに取り組んでいる。(西村委員)
承認	4. 学修成果	主な課題	・23年度では、国家2級は、国際自動車整備科で初めての卒業生を輩出し、ジーゼルエンジンで全員合格した為、国家2級整備士として、全員が卒業できた。 ・国家1級は、8名の不合格であった。73名と過去最も多い学生数、また、低位者も多く、指導に苦慮した。(内訳、試験直前にインフルエンザに罹患者2名、極低位者6名)
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	5. 学生支援	主な課題	・就職を希望する学生は、全員内定した。 ・日産関連企業以外の就職内定者は、例年20～25%程度であり、車体科の学生が高い傾向にあり、日産販売会社への就職指導が、大きな課題である。
		主な意見	・日産大阪の車体整備工場は、人員不足であり、募集している。(内藤委員) ・京都日産からガイダンス時にBP職に関する就職で丁寧に説明した。(三浦委員)
		意見の受止め	・カスタマイズ科の学生が、日産関連企業に行けていない。全国の日産販社でBP工場を持っている企業を学生に紹介している。(川嶋) ・日産サービスセンターでも人手不足の解消が必要。日産グループ内で採用を充実させることが目標である。(川嶋) ・京都日産からのガイダンスは、学生達は、非常に好評だった。(民野) ・車体の学生で、日産圏への就職率は、向上している。(民野)
承認	6. 教育環境	主な課題	・投資効率の高い計画とする為、教科担当教員と相談の上、優先順位をつけて見直していく。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	7. 学生募集 ・受入	主な課題	・2024年4月入学者数は、定員の91.2%と過去5年間で最も多くの学生を獲得できた。しかし、留学生比率が52%と日本人より高い結果となった。 ・留学生の獲得もさることながら、日本人獲得に向けた対策を行っていく。
		主な意見	・トヨタ神戸校は、日本人比率が60%である。それは、トヨタのブランド力か？、TVCMの影響か？(三浦委員) ・日産自動車に整備士の魅力を訴えるようなコマーシャルを流して貰うなどの対策はいかがか？(三浦委員) ・ベトナム人が、減少している。何故か？(三浦委員)
		意見の受止め	・トヨタ神戸校の募集は、ブランド力と推察する。(橋本) ・ベトナム人の減少理由は、わからない。調べる必要がある。(橋本)

承認	8. 財務	主な課題	・学生応募が漸減していることが最大の課題。上述の「学校の将来構想」「教育の質の向上」「学生募集活動」等の成果から、選ばれる学校になれるかが鍵。 ・中期計画ではコストを抑えた運用と総学生数の維持が必要。早期に募集を伸ばす方策検討が必要であり、事業計画に合った学生数の確保が大きな課題。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	9. 法令等の遵守	主な課題	・違法改造、道交法に関するもの、未成年の飲酒、喫煙。更には昨今問題となっている違法薬物防止についても周知徹底の為に活動を継続していく。また、特殊詐欺でのアルバイト名目で「出し子」「受け子」の役割を引き受けてしまわないような注意喚起も行っていく。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	10. 社会貢献	主な課題	・学園祭等を利用して高校・企業・団体・地元地域との関わりを深くすることで、地域活動への参画を増やし、社会性を校内に取り込み教育の質を向上することに繋げていく。 ・地元中学校との繋がりを深めて、中学校での授業の一部を当校学生が協力できるようになった。年々、中学校からの依頼、高校の職場体験の依頼が増えて来ている。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	11. 国際交流	主な課題	2024年度に「国際オートメカニック科」が、開設した。しかし、留学生独立課程の為、日本人学生との交流が減少する為、対策を検討中である。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—